

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

全問マーク式。

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

- ・例年通り、〔I〕で文章正誤問題、〔III〕で史料問題が出題された。
- ・〔I〕を除く文章4択は小問30問中17問出題された。また、「なければエを選べ」の形式は小問3問、年代整序は小問2問出題された。
- ・時代別では、近代から3割程度、近世から2割程度、中世・古代・戦後からそれぞれ1割半ば程度出題された。
- ・分野別では、政治から5割程度、ついで外交から3割程度出題され、この2分野で約8割を占めた。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔I〕	文章 正誤	古代～戦後 総合	古代～戦後の総合問題 2. b. の「斎蔵・内蔵・大蔵」、6. b. の「服忌令」、8. b. の「佐渡金山」の払い下げ先はやや難。これら以外は基本的な知識で対処可能であり、取りこぼしに注意したい。	やや易
〔II〕	選択 文章4択 用語4択 年代整序	古代～近世 政治	古代～近世の法 2. エ「刑部省」はやや難だが、官庁名から類推可能。4. は判断する根拠に乏しく、難しい。8. の正文は判断が難しいが、消去法で対処したい。10. はαが武家諸法度元和令・武家諸法度寛永令ともに同文で、「古い順」に並べることができないため、解なしとなる。	標準
〔III〕	選択 文章4択 用語4択 組合せ4択 (史料)	近世・近代 政治・外交	A 相对済し令(『御触書寛保集成』) B 支那事变処理根本方針(『日本外交年表並主要文書』) A: 1.・2. は事前の史料対策により得点が可能である。一方、3.・4. では史料の読解が求められており、ここで差がついたと思われる。 B: 史料中の「支那現中央政府」や「新興支那政権ノ成立ヲ助長」、および9.・10. の選択肢の吟味から日中戦争勃発後の状況を読み取り、それをふまえて各設問の選択肢を検討すれば、正解を導くことができる。	やや難
〔IV〕	選択 文章4択 用語4択 組合せ4択	近代・戦後 外交	A 第一次世界大戦期の大陸進出 B 1970年代の外交 A・Bともに基本事項中心の出題であり、高得点が期待される。とくに本学頻出の戦後史の対策のいかんで差がついただろう。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

学習対策の要は、文章正誤問題・史料問題・近現代史の3点にある。

- ①〔I〕の文章正誤は2行程度の文章が定着し、正誤の判断基準も明確である。ここでは、正文の詳細な記述に惑わされずに誤文を特定できる力を身につけることが重要である。また、文章4択問題が多数出題されるので、歴史事項の内容・時期の理解に力点を置いた学習が必須である。なお、選択肢の文章は教科書に準拠した表現が多いので、本文だけでなく脚注・コラム・図版の説明にも留意して対策を進めたい。
- ②史料問題は必ず大問1題出題される。頻出史料の占める割合が高いため、教科書とともに市販の史料集や河合塾の講習などを利用して史料の内容把握を中心とした学習を心がけること。
- ③近現代史からの出題が多い。文化史も含めて近現代史の対策を怠らないこと。
- ④同一のテーマや事項が繰り返し出題される傾向がある。また、文章正誤や史料問題の形式などに慣れておくためにも過去の問題の研究(5年分が目処)を怠らないこと。